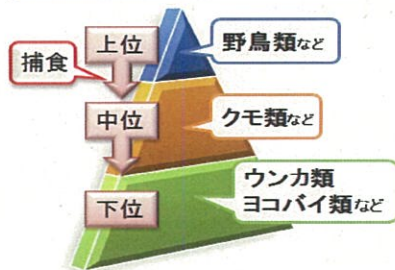


## 有機栽培水田の生物多様性は クモ類の個体数から推測可能

平成26年6月から9月にかけて水田内のクモ類の個体数を調べたところ、長期間有機栽培を行った水田では、慣行栽培水田と比べて多くのクモ類が棲息しており、このクモ類の個体数が多い水田は生物多様性に富んでいることが推測できました。

### ○水田生物多様性の評価においてクモ類に注目する理由

#### 水田内生態系ピラミッド(イメージ図)



～クモ類の個体数は生物多様性の指標になる～

- ・水田に棲息するクモ類は、小さな虫（ウンカ類やヨコバイ類など）の天敵である。
- ・同時に水田を訪れる野鳥類の餌でもある。
- ・クモ類の数が多いということは、生物多様性に富んだ環境であることを示している。

(『農林水産省・農業に有用な生物多様性の指標生物』より抜粋)

### ○平成26年7月の有機栽培水田と慣行栽培水田のクモ類個体数

～有機栽培水田ではクモ類個体数が慣行栽培水田に比べ多い～

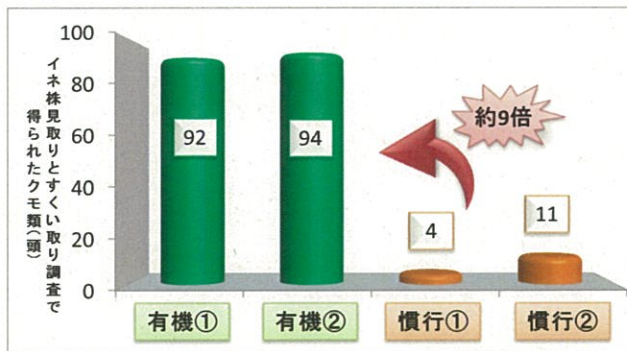


図1、7月に調査を行った有機栽培水田と慣行栽培水田のイネ株見取りとすくい取り調査で得られたクモ類個体数

本県の5年以上有機栽培を行った水田と隣接の慣行栽培水田において、7月に水田内のクモ類\*1の個体数について調査\*2を行ったところ、有機栽培水田は慣行栽培水田と比べてクモ類の個体数が約9倍多いことがわかりました(図1)。

今回の調査では、7月以外でも同様に有機栽培水田の方がクモ類の個体数が多い傾向が見られました。クモ類の個体数から、長期間有機栽培を行った

水田では慣行栽培水田と比べて生物多様性に富んだ環境になることが推測されました。

\*1 クモ類調査対象：コモリグモ類…主に、イネの株元を走るもの。

アシナガクモ類…主に、イネの葉の上に隠れているもの。

\*2 クモ類調査方法：イネ株見取り…水田4カ所で畦から2株以上内側の株を5株選び、静かに株を倒し、イネ株下1/3及び水面を観察してクモ類を数える方法。

すくい取り…水田2カ所で捕虫網を20回振りつつ前進。網に捕えたクモ類を数える方法。

問い合わせ先：資源環境研究部病虫科(担当：角菜津子、小塚雅弘) TEL：0853-22-6904

E\_mail：nougi@pref.shimane.lg.jp